

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年3月16日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690101359
法人名	社会福祉法人 野の花会
事業所名	グルッペ 野の花
所在地	鹿児島県鹿児島市与次郎一丁目4番18号 (電話) 099-230-7777
自己評価作成日	令和2年2月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和2年3月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は平成28年2月、アルテンハイム鹿児島(複合型施設)の2階に街中であって生き生きと暮らせるグループホームとして開設いたしました。全室個室(トイレ付)、日中は明るく広いリビングスペースでもお過ごしいただけます。認知症で自立した生活が困難になったお客様に家庭的な環境の下で食事、入浴、排泄等の日常生活の支援や心身の機能訓練を行うことにより、お客様が安心と尊厳のある日常生活が継続できるよう生きる喜びを支えるケアや自立支援の介護に努めています。日課に散歩や脳活性化リハビリを取り入れ、認知症予防や改善にも取り組んでいます。また、特養に歯科衛生士、言語聴覚士、理学療法士が常勤で勤務していることでケアについての相談や指導を受ける事ができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、近隣に県庁を始め市立図書館などの公共施設に囲まれた文化的な街中に立地している複合型施設の2階で、散歩や買い物の際には挨拶を交わしたり楽しめる環境である。
- ・定期的な訪問診療や受診、職員看護師などの健康管理との連携も図られ、緊急時の対応など適切な医療を受けられるよう支援している。また、特別養護老人ホームの歯科衛生士、言語聴覚士、理学療法士との連携も図られ助言もケアに活かされている。
- ・自治会や通り会に加入し、校区の夏祭りや清掃活動など地域の行事に積極的に参加する一方、1階のロビーの広いスペースをピアノ演奏や会合など地域との交流の場として開放している。また、認知症についての相談に対応するなど日常的に交流している。
- ・職員は、外部研修や内部研修に参加し資質向上に取り組み、利用者一人ひとりが張り合いを持ち喜びに繋げるようなケアに努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「福祉文化の創造（福祉に文化を）」を法人理念とし、お客様の生活全てを文化ととらえ、芸術文化と生活文化を取り入れ、尊厳あるケアに努めています。理念はケア会議、職員会議、広報誌等で日々周知を図っています。	法人理念を事業所や重要事項説明書・パンフレットに記載している。理念はケア会議・職員会議等で振り返り、理念を共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の暮らしの中での散歩や買い物時の交流、地域行事へ積極的に参加し交流を図るようにしています。また、研修やボランティア、慰問等の受け入れも日常的に行うようにしています。	町内会や通り会に加入し、校区の夏祭りや小学校の運動会・毎月の清掃活動などに積極的に参加している。高校生の実習や高校教諭の体験学習、ボランティアの受け入れも行っている。散歩や買い物時には、会話を交わしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	法人は毎年地域に向けての講演会や勉強会を定期的で開催している。事業所も実習生・ボランティアの受け入れや家族・地域へ認知症相談や支援の方法などを伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、お客様の状況や活動報告を行っている。また、委員の方々からの意見や地域の行事等会議での報告をケア会議で職員へ伝達し、地域との交流やサービス向上に活かせるように努めている。	会議は定期的で開催し、事業所の状況やヒヤリハット・外部評価の報告などを行い、参加者からも多くの助言や提案がある。長寿あんしん相談センターより支援事業についての説明やインフルエンザの状況等を聞き、サービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市担当者とは問題点や情報等その都度窓口や電話にて相談、報告を行っている。長寿あんしん相談センターとは運営推進会議等で情報交換や連携、研修会等にて協力を図っている。	市担当者とは窓口に出向いたり、電話で更新や事故報告・情報交換を行い協力関係を築いている。長寿あんしん相談センターとは運営推進会議等を通して協力関係もできている。市主催の研修にも積極的に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人は開設当初から身体拘束をしないケアを実践している。法人全体で定期的に勉強会を実施し、事業所でも年間研修計画にて定期的に研修を実施し、身体拘束をしないケアを実践している。	法人で外部からの講師による定期的な勉強会を実施している。全職員が参加できるように配慮している。事業所でも年間研修計画を立てて定期的に研修を実施している。言葉による拘束も含め、身体拘束をしないケアを実践している。日中は、玄関の施錠はせず、職員間の連携で安全な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待に関するマニュアル、年間研修計画にて定期的に研修を行っている。又、日常の声掛けやケアでも職員間でお互いに注意し、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関するマニュアル、定期的な研修会を実施し、施設外研修に参加した職員は伝達研修会で職員へ伝えている。成年後見人を利用されているお客様がいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約前にご本人も含め見学いただき、契約の際は管理者が内容を十分説明し、理解・納得して頂けるように努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>お客様、ご家族の意見や要望は面会時や運営推進会議、家族会等で確認し、その都度対応している。年1回法人すべての事業所が参集し、第三者委員を交えて委員会を開催し、意見や要望等は職員へも伝えている。入口にご意見箱を設置している。</p>	<p>利用者からは、日々の関りの中で要望等を聞き、家族からは面会時や家族会等が意見を聞く良い機会となっている。年1回、第三者委員を交えて、法人すべての事業所の職員が参加しての委員会も開催している。入口に意見箱を設置している。家族の協力で乳酸菌飲料の要望に対応した例もある。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>鹿児島事業所の全職員が集まる職員会議を毎月理事長も参加し実施している。運営や行事、サービス内容等を協議している。管理者はケア会議やカンファレンスでは職員の意見が出やすいように配慮し、年2回の人事考課の面談でも聞き取りしている。</p>	<p>管理者はケア会議やカンファレンス、個人面談で職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映を図るよう心がけている。年2回の人事考課の面談も行っている。月1回、理事長参加の職員会議には全職員参加で、意見や要望等を協議している。職員の勉強会を実施し避難訓練に反映している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>法人は年2回の人事考課制度を導入し、職場環境の整備に取り組んでいる。管理者が個別面談にて個人目標や意見を聞く機会を設け、人材育成やスキルアップに繋がるよう努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人は法人内研修に今の時代にふさわしい講師を招いて職員全員で受ける機会を設けている。また、外部研修へ参加できる体制や資格取得できるような支援も行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣の同業者との交流や職員も積極的に外部研修へ参加できる機会を設け、ネットワーク作りやサービスの質の向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始前には必ずご本人・ご家族と面談し、身体状況や環境、生活歴等伺いながら本人の安心を確保し、不安や寂しさを感じないような関わりで心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人同様にご家族の想いや不安、要望等を確認し、安心して利用ができるよう信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族が何で困っているのか、何が不安なのかを見極め、必要なサービスも含めて対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中でお客様のできる事や役割を見つけ、自立支援を促すケアに取り組んでいる。ゆっくりとした時間を一緒に過ごし、尊厳を大切にしながら関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共にお客様を支えるように随時連絡や相談を行っている。また、行事への参加やお盆、正月などご家族との時間が持てるよう呼びかけている。面会の少ないご家族へは声掛けしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お客様一人ひとりの想いや生活歴、馴染みの関係を尊重し、実現できるような支援に努めています。定期的なドライブや行事、家族の面会等を大切に、関わりが途切れないように支援している。	家族や友人・知人の訪問の際には居室で会話をしたり、お茶を飲んだりしている。ドライブや買い物・手紙・電話の取次ぎなども行って、継続的關係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席やレクリエーションの場所等お客様の状態や性格など配慮しながら支援している。日々の暮らしの中で状態が安定し、お客様が共に支え合う環境になるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退居にて契約が終了しても入院先に出向いたり、電話などで近況の確認を行いご本人・ご家族が不安にならないように相談や支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いを大切にその方らしく暮らしていただくために、ご本人からの意向や希望を伺い、可能な限りご本人の思いに沿った支援に努めている。思いを伝えられない方はご家族に確認したり、表情などから察するようにしている。	入居時の情報をもとに、入浴時など日々の関わりの中で、言葉や表情などから思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族にも相談しながら職員で話し合い、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用開始前にご本人やご家族、担当されていた関係機関からの情報や生活環境等の情報収集し、職員間で共有できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしや心身状態等を個別記録に残し、職員間で連携を図り情報共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意向や課題を考慮しながら介護計画書を作成し、担当者会議を開催している。また、定期的なモニタリングやケア会議にてお客様の状態を職員全員で理解し、定期的、状態に応じて介護計画書の見直しを行っている。	本人や家族の意向を確認し、主治医や関係者等の意見も踏まえて、担当者会議で話し合い個々に応じた介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、必要時に見直している。状態が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録に日々の状態や言動、経過等記録している。また、食事や水分、排泄等も記録し職員間で情報を共有しながら必要に応じて介護計画の見直ししている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービス計画以外でも多様なニーズや意向に応じて必要な時に必要なサービスが提供できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や事業所の外出行事等できるだけ地域の中へ出かけるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望やこれまでの主治医との関係が継続できるよう支援している。家族が受診介助できない時や緊急時は職員で支援し、情報共有、連携を図っている。往診時も看護師、職員で状態報告している。	受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医と事業所の関係を築きながら支援している。協力医療機関の月2回の訪問診療と歯科も訪問診療で対応している。専門医受診は家族の協力のもとで支援している。職員看護師とかかりつけ医との連携で緊急時の対応などに適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>常勤の看護師がおり、介護職員との情報交換や医療機関との連携が図れている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院後は管理者が定期的に訪問や状態確認し、主治医との連携で早期に退院できるように支援している。日頃よりかかりつけ医療機関との連携を図るよう努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期、緊急時の対応等については日頃よりご家族と話し合い、主治医の助言をいただきながらご家族が不安にならないように支援している。看取りを希望される場合は指針の説明を再度行い、同意を得たうえで医療と連携し取り組んでいる。</p>	<p>入居時に重度化や終末期・緊急時の対応等について説明し同意を得ている。状況変化に伴い家族の意向を随時確認し、主治医の助言を得て、家族と方向性を共有できるよう取り組んでいる。看取り希望の場合は看取り指針の説明を行い、同意を得たうえで医療と連携し取り組んでいる。看取りの事例もある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>事故対応マニュアルもあり、定期的に勉強会も実施している。特養や小規模多機能も併設しており、緊急時はお互いに連携がとれるようになっている。定期的に消防署の指導でAED、心肺蘇生訓練を実施している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害時のマニュアルもあり、建物全体で年2回以上、日中、夜間想定火災避難訓練等を実施している。地域の協力体制も八幡校区コミュニティ防災連絡会に加入し地域との協力体制も築いている。</p>	<p>消防署立会いのもと年1回、自主で年1回の昼夜想定避難訓練を実施している。スプリンクラーや緊急通報装置も設置し、定期的に設備等の点検も行っている。校区コミュニティ防災連絡会に加入し、民生委員や地域との協力体制もできている。風水害の対応マニュアルも整備している。水・米・カレー・缶詰・レトルト食品・パン等を備蓄している。おむつやカセットコンロなどもある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の理念に深く関わっており、法人がもっとも大切にしている部分である。マニュアルや基準書を利用し、ケア会議で定期的に研修している。外部講師による法人全体の研修会も定期的実施している。	外部講師による法人全体の権利擁護等の研修会を定期的実施し、事業所でもケア会議で定期的に勉強会を行っている。入室や入浴などではプライバシーや羞恥心に配慮している。日頃から誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや個人記録等の取扱いに取組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で同じ目線でゆっくり傾聴し、会話を楽しめる環境に努めている。自分の思いや希望をうまく表出できない方は表情や仕草からくみ取り自己決定の支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、ゆっくり待つことを基本にその人らしく暮らせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	季節に応じた身だしなみやおしゃれが楽しめるよう配慮し、行事や外出時はふさわしい衣類や化粧等支援している。希望でカットやパーマ、カラーなどの利用も行える。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様の状態や嗜好に応じた食事の提供、食前の嚥下体操、楽しみながら食事ができるように配慮している。また、食事の準備や片づけ等も手伝っていたき、季節を感じる献立や行事食にも努めている。	併設施設の栄養士による献立での食事提供であり、事業所で職員がご飯や汁物を作っている。刺身食もある。盛り付けや片付けなど職員と一緒にやっている。誕生祝いや季節の行事・花見の弁当など、食事が楽しみなものになるよう工夫している。食前の嚥下体操や口腔ケアも大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮した食事の提供、毎日の食事、水分摂取量は記録に残し情報共有している。水分や食事が少ない方は主治医や家族へ報告し、その都度対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の身体状況に応じて口腔ケアへの声掛けや介助にて毎食後実施している。介助の必要な方は歯科衛生士の指導を受け、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	プライバシーに配慮しながらトイレでの排泄を基本とし、排泄チェック表を活用し、排泄パターンに応じた排泄ケアに努めている。また、各居室にトイレがありプライバシーに配慮しながら安心して排泄ができる環境となっている。	各居室にトイレが整備されている。個々人の排泄パターンや習慣を活かして、必要に応じて声かけをし、トイレでの排泄や排泄の自立を支援している。夜間帯も個別に排泄援助を行っている。オムツ利用者はいない。布パンツとリハビリパンツにパット使用で対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の日課に体操、歩行訓練や天気の良い日は屋外へ散歩など運動を取り入れ、薬を使わずに運動、食事、水分で便秘予防に取り組んでいる。水分は1日1500mlを目標にその方に応じた飲み物を提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	毎日入浴できる体制になっており、本人の希望される時間帯に個浴でゆっくり入浴を楽しまれている。また、着脱や洗身等自立支援の介護に努めている。	個々人の体調や希望にそって、毎日入浴できる体制で柔軟に対応している。個浴でゆっくりと入浴を楽しめるように支援している。入浴を拒む利用者には声かけや時間調整などを行い、職員間で連携して、状況改善に努め支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態や体調に応じて休息や午睡ができる環境を設定している。午睡で生活リズムが崩れないよう日中の活動プログラムにも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情は個別台帳にいつでも見れるように準備し、確認・理解ができている。服薬時は誤薬や飲み忘れがないように介助や手渡し、服薬状況を記録に記入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の趣味や生活歴から役割や楽しみ、できる事を共に模索しながら支援している。屋外の散歩や買い物、ドライブ等で気分転換も図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	毎日の散歩や外気浴、ドライブ、買い物等できるだけ屋外へ出かける機会を多く持つようにしている。年間行事や地域の行事へご家族や地域の方々の支援を得ながら出かけるようにしている。	日常的には、周辺の散歩や外気浴・買い物等に出かけている。屋外へ出かける機会を多く持つようにしている。計画を立て、初詣・都市農業センター・美術館・花見・ドライブ・木市等に出かけている。花見では家族も一緒に弁当を食べ楽しんでい。家族の協力で外出や外食にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は本人がお金を持つことの大切さを理解し、自己管理できる方は自由に使えるような支援を行っている。自己管理が難しい方は家族の理解を得ながら買い物等できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご本人の状態を確認しながら、電話の取り次ぎや希望時は電話をかける等の支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や装飾を飾ることで季節感や家庭的な雰囲気を感じるような工夫をしている。居室は室温や湿度に注意し、馴染みの物を使っていただき、居心地のいい空間づくり、プライバシーに配慮している。	共用空間は廊下が広く車椅子や歩行器での移動がしやすい。採光や換気・温度・湿度に配慮し清潔である。季節の花や飾り物などで季節感を大事にしている。窓から近くの競技場の風景や人の往来も楽しめる。ソファもあり居心地よく過ごせるような工夫がしてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子、ソファの配置を工夫し、お客様同士が楽しく語らえる空間や一人で過ごせる居室や空間を整えている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には家具等は事業所で準備してあるが、持ち込みも自由である。ご家族の協力で大切な物や思い出の品などの持ち込みもあり、自宅の環境に近い状態で安心して過ごせるように工夫している。	各居室にエアコン・電動ベッド・洗面台・トイレ・タンスが設置している。テレビや時計・ラジオ・毛布類・昔の写真・ぬいぐるみなど、使い慣れた物や家族の思いが伝わるものが持ち込まれ、安心して過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、廊下幅も広く車椅子や歩行器での移動も可能である。すべて個室で電動ベッドにてお客様が動きやすい環境設定となっている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない